



令和6年10月25日

岩倉市議会

議長 関戸郁文様

会派名 創政会

代表者名 須藤智子

第19回全国市議会議長会研究フォーラムー主権者教育の新たな展開ー
報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

- 1 実施日 令和6年10月9日(水)～10日(木)
- 2 研修先 トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)
- 3 出席人数及び氏名

3名	梅村 均	片岡健一郎
	伊藤隆信	

- 4 復命事項

別紙のとおり

第19回全国市議会議長会研究フォーラム報告書（創政会）

作成者：梅村 均

【開催日程】令和6（2024）年10月9日（水）・10日（木）

【場 所】トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）

【参加者】梅村均 片岡健一郎 伊藤隆信

【主な内容】

議題：地方議会の課題と主権者教育

パネルディスカッション

コーディネーター：井柳美紀氏（静岡大学人文社会科学部法学科教授）

パネリスト：土山希美枝氏（法政大学法学部教授）

越智大貴氏（一般社団法人WONDER EDUCATION 代表理事）

渡辺嘉久氏（読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局）

遠藤政幸氏（盛岡市議会議長）

- ・主権者教育は学校での扱いが少ないのが現状
- ・文部科学省より高等学校等における政治的教養の教育と生徒による政治的活動等について通知がだされている。そこには、「現実の具体的な政治的事象も取扱い有権者として自らの判断で権利を行使することができるよう、具体的かつ実践的な指導を行うことが重要」とある。
- ・地方議会が進める主権者教育事例集が議長会HPにある。
- ・誰がための主権者教育か、高校生議会かを考えること。
- ・議会の場とは何かを踏まえて行うべきである。議会は全ての世代が対象であり、若者世代だけの意見を反映するわけではない。そういったことから議会が主権者教育の主体となることには疑問である。
- ・「受け入れられない」という応答性も議会は大事（必要）である。
- ・議会は議論の場である。・議会はちゃんともめること。
- ・議会は様々な争点を設定して議論する場であり、そうした経過を経て意思決定するところ。
- ・議会の考えを教え込むようなスタンスではなく、「協力」する関わり方が良い。
- ・今の政治に関心があるかの18歳意識調査結果では、日本は56.5%であった。（アメリカ61.7%、イギリス57.8%、中国81.5%、韓国65%、インド62.8%）これは、日本財団の調査結果であるが、独自で愛媛県を調査したところ42.5%であった。
- ・「政治に関心がない」から選挙に行かないというよりも、「どうせ変わらない」から

選挙に行かないということがわかった。一方で「社会のために役立ちたい」とも思っている。

- ・自分たちの意思、意見で変わるかもしれないという体験が大事

(学校での主権者教育の現状)

- ・模擬投票では、自分で社会を変える体験にはつながりづらい。
- ・授業で実施するも、子ども主導になっているとは言えない。
- ・愛媛県では、生徒が政治活動に参加する際、学校に事前に届出が必要となる学校もあり、子どもたちが主体的に学校外の社会との接点を持ちづらい。
- ・政治的中立、授業準備というハードルがある。
- ・どうしても選挙についての知識や啓発を行う教育がメインになってしまう。

(WONDER EDUCATION の取組)

- ・仮想の世の中づくりを、異世代の交流や学びあいを大事にしながら体験する。
- ・社会の課題についてワークショップをしたり、実際に行政の政策に反映してもらうなど子どもが意見表明の体験をする。
- ・議員の仕事についてやフリートークなど、キャリア教育要素を入れた学びの場をつくり議員と交流する。
- ・カギは、「自分たちの行動で、国や社会を変えられる」感覚をもつこと。そのためにも子ども、若者と議会をつくることが大事である。
- ・こども基本法第11条 第1項を確認する。(こどもの施策の策定、実施、評価には、当事者等の意見を反映させるために必要な措置を講ずるもの)

(議会の役割)

- ・若者は関心がないわけではなく、参加しても意味がないと思っているので、交流の機会を増やし、自分の意見が聞いてもらえる、アイデアが反映されるかもと感じられる機会を増やす。
- ・学校でもリアルな政治が扱いやすいような環境をつくる。例えば、外部団体と超党派で主権者教育チームをつくる。政治活動としてあつかわないこと。あくまでも教育である。
- ・政治家との交流は子どもたちの政治意識の醸成に大きく影響するので、1回でも議員との交流機会をつくれるとよい。

- ・クロス集計の結果、「政治は変えられる」と思っている人が投票に行くという傾向がわかった。
- ・情報が大切である。50年後の学校を考える例を出した。人口減少など授業料について、①引き上げ、②地域で負担、③借金で賄うの3つの選択肢でどれを支持するか

というもの。しっかりと情報提供したあと改めて問うと、授業料引き上げとなった。
(大阪教育大学附属高校池田校舎2年生、2023年5月)

- ・若者と高齢者で選挙前にアンケート。出口調査では、世代で望むものが違っていた。
 - ・若者をひとくくりにはいけない。一人ひとりの声を聴いていく。
 - ・学校での授業がやりやすい時期にならないものか。統一地方選挙のある4月では扱いにくい。
 - ・若者には主体的に社会を変えていくという意識が必要であるが、意識の希薄は不足したコミュニティの低下が要因なのか
 - ・単に投票に行くではだめで、なぜ投票に行くかを教えるのが主権者教育である。
 - ・プレスリリースを
 - ・主権者教育は学校単位だけではない。地域でも実施できるとよい。(社会教育)
-
- ・平成28年12月議長の命を受け、高校生議会開催検討が議会運営委員会で始まる。
 - ・平成29年7月盛岡市議会高校生議会第1回を開催した。
 - ・目的：時代を担う高校生が選挙及び政治並びに身近な地方政治への関心を高めることとした。
 - ・市議会が大学に出かけ意見交換を行う事業「もりおか mirai おでかけミーティング」を開催した。3つの大学で開催した。議員がファシリテーターとなり進行し、市政について意見交換を行った。

課題討議 「主権者教育の取組報告」

コーディネーター：河村和徳氏（東北大学大学院情報科学研究科准教授）

事例報告者：白鳥敏明氏（伊那市議会前議長）

諸岡 覚氏（四日市市議会議員（第83代議長））

服部香代氏（山鹿市議会議員）

- ・現在の主権者教育で感じる限界として、模擬投票に偏りすぎた教育であること。選挙の仕組みを学ぶ上では有効であるが……。また、政治的中立の足かせがあること。ただ、政治的発言をしないことだけが政治的中立というわけではない。ディベートも不足している。
- ・議員と会うだけでも意味がある。
- ・総合学習的な発想で。地域の課題発見→議論→改善策の提案＝政治
(伊那市議会)
- ・無投票で議員のなり手不足に危機感を抱き、全議員参加の「魅力ある議会づくり検討会」を設置した。議会への関心を高めるための方策として、若い世代への議会傍

聴や意見交換等を企画した。

- ・意見交換の流れ：生徒の取組発表 3-4 人→各グループ討議（生徒、議員）→グループ討議の発表（グループ議員代表）→生徒の感想発表（全員） *議場で開催
- ・懇談のテーマ例：①この地域の良い所②議会に若者の力を取り入れるには③その他生徒から要望したいことなど
- ・学校に意見箱を設置したら、政治に興味を持つのでは等という意見が生徒から出た。
- ・意見交換に参加した高校生による請願の提出があり、全会一致で採択された。子育て支援センターという名称がわかりにくく何ができるところなのかわからない等意見あった。
- ・高校生からの要望を執行部へ提出した。（通学路の外灯増設の要望）
- ・高校生との意見交換会での「報告書」や「生徒から出された意見に対する市議会の検討結果」を議会でまとめ学校へ提出した。
- ・PRとして、「意見交換会リーフレット」を作成し、全学校へ配布した。議会のHPにも掲載している。
- ・中学生キャリアフェスへの参加。職業体験で議会も参加
(四日市市議会)
- ・正副議長立候補者による所信表明（公約）から始まった。公約＝任期中に取り組みたい事項
- ・議会報告会とシティ・ミーティングの見直しから、出張形式の新しい何かをとという考えから、対象を若年層（高校生と大学生）として「ワイ！ワイ！GIKAI」と称して取り組みが始まった。
- ・議会が学校に働きかけて開催した。（校長会で企画を説明）
- ・意見交換後は、委員会で意見を整理し、今後の検討すべき課題を抽出して、論点を確認した。
- ・開催校の生徒が授業の一環で市議会を訪問し、議会としては、所管事務調査報告書を渡した。その後、一般質問を傍聴していった。
- ・生徒と議員で選挙ポスターづくりを行った。
- ・将来的には、各種業界団体や労働組合などとも開催したい。
- ・参加者を募集した高校生議会を開催。おおむね 30 名で。テーマごとに委員会に分かれて意見交換を行い、本会議場で意見書の採決を行った。
- ・よっかいち市議会だよりこども号の発行
(山鹿市議会)
- ・なりたい職業ランキングベスト 10 入りを目指す。
- ・議会は開かれていない、住民の理解と関心が得られていない、なり手不足といった

ことから小学校を対象にシチズンシップ教室を開催する。

- ・シチズンシップ教室で伝えること：市議会について知る、議員の仕事を理解する、選挙の意義や投票の大切さがわかる。
- ・企画から実施までの流れ：教育長への説明、全議員への提案、校長会で協力依頼、選抜議員と資料検討作成、議長による議員への模擬授業、各担当者を希望により決定→各校の代表者が日程調整、読み聞かせボランティアへの依頼、市選管から投票箱を借りる、投票用紙の印刷、先生への協力依頼
- ・「ポリポリ村の民主主義」という本を活用した。
- ・学校図書館では、選挙関連の童話コーナーを設置し、貸し出しも多く好評であった。(コーディネーターより)
- ・2023年の地方自治改正第89条にある意思決定は議会であるという制度を教える。(市長ではない)

視察研修

盛岡という星で BASE STATION (=情報発信交流拠点)

盛岡市動物公園 ZOOMO (=動物公園再生事業)

【所感】

今回の研究フォーラムでは、「主権者教育の新たな展開」というテーマで、考え方や取組事例を学ぶ機会となった。本市では、議員のなり手不足は見られないが、投票率は低下の一途をたどっている。若者への主権者教育が投票率の向上につながると良いが、それ以前に、若者世代がまちづくりにより一層の関心をもってもらい社会をより良くできるよう、主権者教育を進めていくことは必要と感じた。若者の生活も政治や選挙と結びつきがあるということをいかに説明できるかがポイントである。本市議会では、これまで数多く議会報告会や意見交換会を開催してきたが、学校を対象としたものはない。今後は学校を対象に開催できるよう努めていきたい。ただ、パネリストから議会の役割を踏まえるとあまり議会が主体的にならないよう、学校側からの依頼に協力するような形がとれると良いという意見もあり、きっかけは議会が作る必要があるかもしれないが、そんなスタンスで臨みたい。今後も議会としての活動も進化・充実できるよう努めていきたい。

視察研修では、情報発信交流拠点と再生された動物公園を視察した。移住定住に向けた対応やフリースペースがあるなど仕事や居場所に活用できる施設であった。動物公園においては、園内にリースクールが開設されていた。本市においてもニーズによっては自然生態園でできないものか模索したいと感じた。